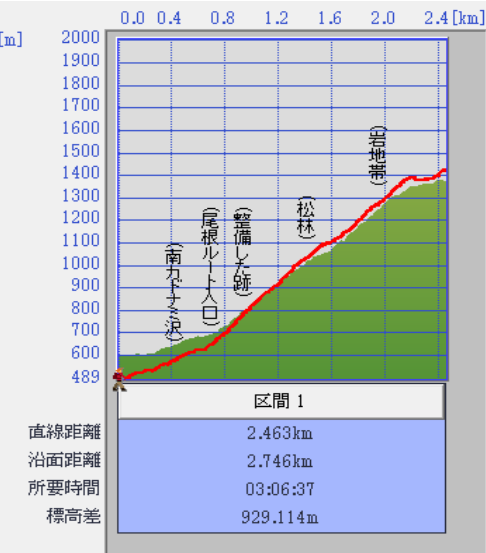


R3.10.30 荒沢山三角点(足拍子岳～荒沢山)

足拍子岳は、その特徴的な形から有名な岩質の山であり、ハイレベルな沢登りでも知られている。2回に渡ってトライした。最初、栗ノ木沢を詰めることを考えたが、沢床のコケが厚く、スパイクでも菌が立たない上に連瀑が多く断念。したがって尾根を詰めていくこに変更、進行すると整備した跡を発見する。1200mくらいまで登山道(廃道)で進行できた。その後の岩地帯付近からは不明瞭となり藪こぎがメインとなる。稜線まで到着すると蓬峠から中里スキー場まで伸びる登山道を利用して足拍子岳まで行ける。ここまでは危険箇所はないが急登の連続につき疲労が半端ではない。足拍子岳は岩の山だがクライミングの要素は殆んどなかった。因みに、今までの経験を踏まえて考察するに、ある程度有名な山には登山道が付いていることを今回確信した。荒沢山までの縦走は登山道が半分くらいしか分からない。シャクナゲなどの背の低い藪が道を消してしまっているようだ。ホソドノコルやナイフリッジなどの冬山登山では難所であるが、無雪期では藪を使用すれば難なくクリアできる。尾根から離れなければ問題ない。随所にアンカーが打ち込んであり昔は整備されていたことが伺える。



尾根ルート入り口～足拍子岳



クロガネノ頭方向

クロガネノ頭を経由して蓬峠に繋がる極端な凹凸が特徴の登山道である。遠くまで尾根が伸び、なんとなく道のようなものが見える



昔に整備された登山道

草木で被って見えないところもあるが、概ね登山道を確認できる。見失っても尾根を登り続けてれば登山道になる。草刈機で刈ったきの断面から、それほど昔ではないことがわかる



尾根ルートの入り口

「かどなみ橋」の左岸に、古くはトラックなどが入り工事をしていた砂利道がある。しかし、舗装道路からは藪にになっており分からない。砂利道の終点に栗ノ木沢の下流に土砂を止めるための構造物がある。この構造物の向かって左側の藪から入ると、尾根ルートとなるが、最初は見通しの良い傾斜地になるので、ここで尾根を見つけることが大切である